

# 「安全運転研修」について

車両事業部 教育管理課

10月13日（土）に「安全運転研修」を開催しました。

この研修は、神姫バス安全教育課による指導のもと、

①基本に戻る、②自分の限界を知る、③安全意識の向上をテーマとする体験型の研修会です。

## <研修内容>

### ・開講



### ・自己紹介



### ・ストレッチ体操



今回は、姫路・神戸・三田の各営業所から16名の方々が参加しました。

### ・車両点検

#### 課題① ゆるんだホイールナットを探せ！



#### 課題② 空気の抜けたタイヤを探せ！



車両点検は、ブレーキ・タイヤ・灯火類・燃料など運行前後の確認が義務付けられています。

疑いの目を持って点検する。また、毎日の点検の積み重ねによりわずかな変化への気づき、すなわち早期の異常発見につながります。

## <受講者の声①>

- ・ 普段、当り前の様に簡単に運転してきた事を、少し角度を変えたりするだけで事故を予知・予測できたり回避できる事に驚きました。
- ・ 初心を忘れずにをもう一度再確認をしました。
- ・ 今回の研修で少しレベルアップしたと思います。

- 「見ているようで、見ていないかも？」
- 基本姿勢の重要性    • 視界特性と死角



大型車両には乗用車とは異なる死角が非常に多く存在し、様々な角度を映すためのミラーが設置されています。しかしながら、ある検証では、障害物がミラーに映っているにもかかわらず車を発進してしまうケースが多数を占めるという結果が報告されています。

- 運転と反応（緊急回避）…認知・判断・操作のメカニズム



車が停止するまでの距離は、①危険を感じてからブレーキを踏み、ブレーキが実際に効き始めるまでの間に車が走る距離【空走距離】と、②ブレーキが効き始めてから車が停止するまでの距離【制動距離】の合計に③危険な状況が目から脳に伝わるまでの距離【知覚距離】が加算されます。自らの感覚を過信せず、十分な車間距離を確保し、控えめな速度と早めのブレーキを心掛けましょう。

- シートベルトの重要性

- 閉講



研修では、「時速 10km で走行し急ブレーキをかける」という状況をシートベルト装着、未装着の 2 回体験しました。シートベルトを装着しない場合、身体は大きく前方へ傾き、首や身体を支える腕に大きな衝撃がありました。シートベルトは座席毎に耐荷重の限度があるため、前後すべての座席でシートベルトを装着することが重要です。

### <受講者の声②>

- 自分が思っている以上に、停止距離が必要なことが、体感出来、基本が大切だということが分かり、とても勉強になりました。
- 基本に戻り、自分の限界を知り、安全運転への意識を高め、事故防止に努めなければならないと感じた。
- 頭で理解していたことと、体感したことには大きな差がありました。